

| | | |
|--|----|----------------|
| | 公表 | 事業所における自己評価総括表 |
|--|----|----------------|

| | | | | |
|----------------|--------------------------|----|--------|---|
| ○事業所名 | PARCふくしま | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年9月29日 ～ 2025年11月30日 | | | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 13 | (回答者数) | 8 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年12月1日 ～ 2025年12月17日 | | | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 7 | (回答者数) | 7 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年12月25日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | マンツーマンでの個別療育・保護者支援・保育所等訪問支援で包括的な支援が期待できる | 現場で支援に入っているスタッフが訪問支援に行っているため、お子さんの特性や課題などを園の先生と共有したり、かつ療育での様子なども共有でき、密度の濃い情報共有が行える。集団でのアプローチ方法も、実際に行って実績があるアプローチ方法を共有できるため、お互いにとって有益な場になりやすいと考えている。 | より支援の形や方向性が明確化するように、スタッフ間はもちろん、保護者様とも連携を取っていく。訪問先の園の先生方には、訪問支援のメリットを感じて頂けるよう、今のお子さまに必要な具体的な支援方法を先生方が取り入れやすい方法で提供していく。 |
| 2 | 保育士・幼稚園教諭・OT・STと多職種が所属しているため、多角的な視点での支援が期待できる | 保護者の悩みや、本児の様子に関して多職種での視点を伝えることができ、またアプローチの仕方も多職種のため多岐にわたっている。 | 同法人内の訪問看護と連携を行うこともできるため、定期的なケースカンファレンスなど取り入れることで、より多職種での意見を参考にして、支援のアプローチを拡げたり、多角的な視点から連携を行っていく。 |
| 3 | 訪問先の受け入れがいい | 必ず訪問先の理念を確認したり、先生方の支援の方向性を共有いただき、訪問先の支援の方向性に沿った形で後方的なサポートができるように十分に配慮しながら支援方法などの提供を行っている。 | 引き続き”行かせて頂いている”意識を持ちながら、訪問先や先生方を尊重し、どの訪問先とも良好な関係を築けるよう尽力していく。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 小学校への訪問支援を休止している | 児童発達支援の事業所ということもあり、現在は通所いただいているお子さまのみ訪問支援を契約している関係で、小学校への訪問支援は休止している。 | 未就学の段階から就学への移行期が保護者様や、お子さまとしても一番見通しが立ちにくい時期になるため、就学移行もサポート体制を築けるように小学校への訪問支援の再開も視野に入れていきたい。 |
| 2 | 訪問支援に行くことのできる人材の確保 | 広く発達支援の知識や技術を要する業態のため、慎重な人選が必要となる。また、通所事業との人員バランスも考慮しながら、同時に人材育成も行っていかなければならないため、育成プログラムを取り入れることが現状難しくなっている。 | 療法士を中心に、先輩スタッフからOJTができる機会を確保していく。育成プログラムを児発管中心に取り入れながら、人材育成に努めたい。 |
| 3 | 他事業所との支援の方向性のすり合わせ | 制度上一人のお子さまに対して2事業所が入ることも可能なため、支援の方向性が異なるなど、訪問先が戸惑わないようにしていかなければならない。 | 2事業所入る際にはオンラインや電話等で必ず事業所間連携を取り、今のお子さまの訪問先での様子やそれぞれの事業所での支援の方向性をすり合わせしていく。 |